

むかし、おとなりの中国に、大きなとらがおりました。

あるとき、とらは、海を渡ったむこうの日本というところに、きつねというけものがあるといううわさを聞きました。きつねというのは、からだは小さいけれど、なかなか知恵があつて、人間でも化かすほどで、この中国にもとてもそれほどの動物はいないということでした。

これを聞いたとらは、

「なに、いくらきつねがかしくくても、このとらさまには負けるだろう。よし、日本へ行って、力くらべをしてやろう」と、はるばる海をわたって日本にやって来ました。

とらは、きつねにいました。

「おまえは、日本で一番のけものじゃそうなが、わしと、力くらべをしないか」  
きつねは、

「それはとらさん、ようこそおこしくございました。でも、わたしは、力くらべのなんのというほどの者ではございません」といいました。

それでも、力くらべをすることになったので、とらは、

「むこうの長い竹やぶのはしからはしまで、どちらがはやくかけぬけられるか、やってみよう」といいました。とらは、竹やぶを走るのが得意だったからです。

にひきは、竹やぶのはしに行つて、一二の三で、かけだしました。

とらは、いっしょうけんめいに走りました。竹の間をすりぬけて、どんどん走りました。あと少しで反対側のはしに着くというところで、いきなりきつねが現れて、

「やあとらさん。わしのかちだぞ」といつて、かけぬけました。きつねは、こっそり、もういっぴきのきつねにたのんでおいたのです。

そうとは知らないとらは、

「初めての所だったから、よくわからなかったんだ。もういっぺんやりなおそう」といつて、また走りだしました。こんどこそ勝とうと思つて、いっしょうけんめい走りました。もとの所まで来て見ると、またきつねが先に来ていて、

「やあ、とらさん。わしのかちだ」といいました。

とらは、ふしぎだし、くやししい、「もういっぺん」といつて、走り出しました。けれど、また負けてしまいました。もういっぺん、もういっぺんと、何度も、何度もやりましたが、どうしても勝つことができません。とらは、弱つて、ふらふらになってしまいました。

「日本には恐ろしいけものがある。こりゃあ、かなわん。早く帰らないと、どんな目にあうかも知れん」

とらは、大急ぎで、中国に帰って行きました。

とらは、帰つてからも、くやしくてたまりませんでした。そこで、自分によく似た小さいけものをこしらえて、自分の口ひげを三本やつて、日本に送りました。

それから、日本には、「ねこ」というものがあるようになったのです。ねこの口ひげの中に、長いじょうぶなのが三本あるのは、とらからもらつたものだそうです。

もうしむかしけつちりこう